

会 報

“ヴァリエティー”

V A R I E T Y

第 35 号

日本近代史読書会

The Reading Circle of Japanese Modern History

会報『ヴァラエティー』

第 35 号 目次

会報発刊の辞

アッシジの修道院 1 頁

出前トーク「三内丸山遺跡」歴史講演会

「三内丸山遺跡」講演録 2 頁～36 頁

感想コメント 37 頁～40 頁

花木の世界 41 頁

文献・史料から抜き書き

歴史とは何か 42 頁

日本語について 43 頁

荘園について 44 頁

北前船について 45 頁～46 頁

発句一題

編集後記

発 刊 の 辞

E. H. カーは、「歴史とは過去との対話である」と述べています。私たちは、この言葉の意味を深く認識し、激変する世界の中で、歴史的転換期にある日本と日本人にとって最も適切な判断と行動を見出すために、幕末から現在に至る日本近代化の過程について、先人が築き上げてきた努力と業績を踏まえながら、様々な事柄を俎上に載せて考察していきたいと思います。

そして、歴史作家である司馬遼太郎氏が語った次の言葉を掲げて、私たちの道程の励みにしたいと考えます。

「われわれは今後きつといい方向に行くと思うのですが、この昭和を忘れてはいけません。もっと研究しなければいけない。もっと考え込まなければいけないと思っています。」(『昭和という国家』)

2013 年 12 月 18 日
日本近代史読書会